見どころ

「雨引の里と彫刻2013」

先月号でご紹介した、9月22日～11月24日まで開幕している「雨引の里と彫刻2013」（以下「彫刻展」という）。今月号では、その見どころや魅力・背景などを、今年4月から桜川市に住み始めた作家・山添（やまぞえ） 潤（じゅん）さんにお話を聞いてみました。

――彫刻展開催のきっかけを教えてください。また、会場に桜川市大和地区が選ばれた理由を教えてください。

山添　この彫刻展は96年に大和村地区を制作の拠点にしていた7人の作家によって始まりました。作品の制作現場を発表の場として見直してみようということがそもそもの発端だったようです。日本では彫刻というとまだまだ特定の場所（美術館・公園・駅前など）でしか目にしない印象がありますが、桜川市の里山の中に展示することで少しでも彫刻というものを身近に感じてもらえたらと思います。

【山添潤さんプロフィール】
1971年京都府生まれ。19歳で彫刻を学ぶKOBATAKE工房（埼玉県）に入学し、彫刻の面白さを知った。工房修了後、旧真壁町に工房を置き、その後、各地で個展を開いたり、石彫シンポジウムに参加したりして活躍されている。

――山添さんが彫刻展へ参加した経緯や理由を教えてください。

山添　僕自身は4回展から参加しました。1回展からその存在は知っていましたが、3回展の時に看板設置などを手伝ったりして初めて関わりました。とにかくメンバーみんなが楽しそうでした。こんな何の役にも立たないことを必死で、全力でやっている人達がいるというのは素敵なことだなと。この中に入ったら何か面白いことがあるのではと思っていました。

――作品づくりの様子や大変なところを教えてください。

山添　今回の作品は、砂岩の原石を4等分に切削し、前面の2つは割れ肌を残し両脇に、裏面の2つのうちの1つを彫り込んで真ん中に置き構成しました。原石を正確に切削することはなかなか大変です。最近乱視が進んだみたいで（笑）

――山添さんの作品のこだわりや見どころ、作品名の由来を教えてください。

山添　切削機を使っていて何なのですが、なるべく手で彫るということですかね。この10年くらいは意図的に機械を使わないようにしています。僕にとってはその方がしっくりくるので。作品名は「残像」ですが、彫刻とは残された像かなと、まぁそのまんまです。場所に関しては遠くからでも近くからでも見ることが出来る場所を選びました。

タイトル「残像」
砂岩の原石を切削して制作した山添潤さんの作品

――彫刻展以外では、作家の方はどのようなことをしているか教えてください。

山添　働いています。教職につかれている方が多いですが、皆それぞれ忙しくやっています。やはり彫刻だけで食べて行くのは難しいのが現実です。

――桜川市に対する山添さんの印象や住んでみての感想を教えてください。

山添　僕は京都市内の団地で育ったので、とにかく緑が多いなという印象が強いです。石が彫れて、かつ東京にも近いこの場所は、僕にとっては魅力的な場所です。住めば都ということですかね。

――最後に彫刻展全体の楽しみ方を教えてください。

山添　人それぞれに楽しみ方はあると思いますが、とにかく車で自転車で徒歩で、自由に好きな様に見ていただけたらと思います。いままで見慣れていた風景が少し違って見えてくるかもしれません。